

## はじめに

今日の交通社会を、より安全で持続可能なものへと高めていくためには、自然科学から社会科学、人文科学にまたがる多様な知の結集が求められる。また、世界的なモータリゼーションの潮流の中にあっても、先進国と途上国、大都市と地方との間では日々のモビリティや生活機会へのアクセシビリティに大きな格差が生じており、交通社会の多様性を重視したアプローチの重要性が示唆されている。われわれに求められているものは、科学的根拠や即地的状況に根ざし、学際的かつ実践的な知を追究する「交通・安全学」の構築である。本書は、そうしたニーズを見通して作成された、試作的な教科書である。

国際交通安全学会（以下、IATSS）は、2014年に創立40周年を迎える。本書刊行の位置付けはその記念事業の一環でもある。国際性および学際性を特徴とするIATSSが、特に最近の10年の取り組みの中で培ってきた知見を、国内外に向けた成果集としてまとめたものである。日本語版と英語版とが同時に刊行され、後者は特にアジア地域の途上国の教育・研究等に活用されることを狙っている。本書は理論編と実践編の2部から構成される。理論編は、学会の中に設置された学会誌IATSS Reviewの編集委員会および英文論文集IATSS Researchの編集委員会の委員が中心となり執筆を行った。執筆者は交通工学、都市工学、電気・情報・システム工学、機械工学、環境学、心理学、医学、法学、行政学、経済学、サステナビリティ学から構成されており、それぞれの分野の知見のエッセンスを学際的に繋げている。実践編においては、最近の10年間に学会内で実施した総数46の自主研究プロジェクトの中から20事例を取り上げ、各事例の概要をプロジェクトリーダーが執筆している。その内容は、国内外の交通社会の現状を精緻に捉え、その改善に向けた実践知を要約したものである。

また、本書の内容は学会の40周年記念シンポジウム「IATSSモビリティ社会デザイン2024～10年後の理想的な交通社会をデザインしよう」とも連動している。シンポジウムにおいては、10年後の交通社会を表すキーワードとして「多様性」や「トランスモーダル」等が注目された。多様な利用者や社会ニーズの下で交通システムをより安全で快適なものへ、さらに派生需要としての交通需要を超えた「移動の喜び」を生み出すものへと進化させるためには、車両技術、インフラ、空間、制度、文化にわたる総合的なデザイン能力とトランスモーダルな発想力が求められる。こうした議論を踏まえて刊行に至った本書が、次世代の交通社会の方向性と将来像を映し出す道標となれば望外の喜びである。